

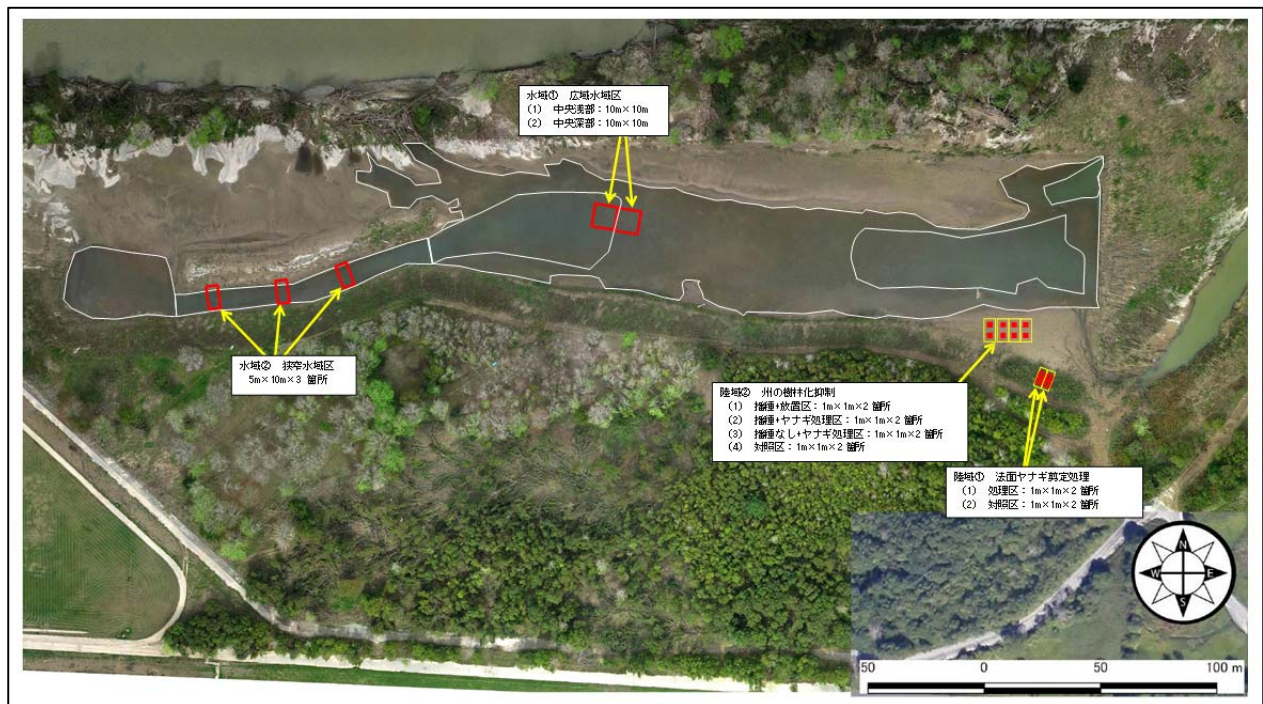
十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (5)

十勝川相生中島上流湿地 (夏期) 魚類等調査の支援活動

この活動は、十勝川相生中島地区 上流部の右岸について、河道掘削後の樹林化対策として形成された湿地環境を平成 27 年度から帯広農業高等学校の農業クラブと帯広河川事務所が進める工事後のモニタリング調査に対する活動支援になります。

- 日 時：平成 29 年 7 月 22 日 (土) AM 8:00~PM12:30
- 参加者：帯広農業高等学校 農業クラブ 24 名 (1~3 年生) 教諭 1 名
十勝川中流部市民協働会議事務局 8 名
河川管理者 帯広河川事務所 5 名
アークコーポレーション株式会社 11 名
- 場 所：十勝川右岸 相生中島地区上流部
- 活動支援内容 1：樹林化抑制調査 (対象：ヤナギ)
- 活動支援内容 2：魚類調査

調査位置図



活動支援内容 1：樹林化抑制調査の補助

樹林化の抑制調査は、湿地箇所之法面部と昨年の洪水で大量の土砂で埋め尽くされた湿地内のヤナギの実生について調査を行いました。

調査内容は、湿地下流右岸之法面に生育しているヤナギの群落で、1m×1mの区画内すべてのヤナギを地面近くで剪定処理する区画と、このまま処理を行わずヤナギの生育する状況を比較し樹林化抑制の効果を検証します。

検証期間は3年間続けて行います。

* 調査の結果は1方形区あたり平均、法面13本、水平部485本でした。



樹高の計測風景



胸高直径を図る様子



ヤナギの種類を説明する室瀬氏



ヤナギを剪定している様子

十勝川中流部市民協働会議の活動支援としては、ヤナギの種類の説明や調査の補助、ヤナギ剪定後の処理などを行いました。



また、湿地内に土砂で埋め尽くされた箇所において、現在ヤナギの実生が大量に発生してきています。現在のヤナギの実生の樹高・直径等を記録し、今後の生育を調査する上での基礎データとして調査します。



土砂で埋め尽くされた箇所の様子



ヤナギの実生



ヤナギの本数を数えている様子



mm単位でヤナギの実生直径を計測している様子



調査の全体風景

活動支援内容2：魚類調査の補助

魚類調査は、魚類の生息状況（どんな環境に？どんな魚が？どのくらい？）を把握することを目的に行います。また、その結果をもとに、それぞれの環境の面積と実際に調査した面積から、水域全体にどれくらいの魚がいるかを推定します。

活動の支援としては、魚類の種類や仕切り網の設置を行いました。

* 捕獲した魚の種類は、フクドジョウ、イトヨ、ジュズカケハゼ、ヤツメウナギ類などで、総数は160匹でした。池全体での推定数など詳細については後日、農業高校の生徒さんから報告があります。



湿地の様子



調査内容を説明する室瀬氏



タモ網で魚を捕獲する様子（1）



タモ網で魚を捕獲する様子（2）





捕獲した魚の計測風景



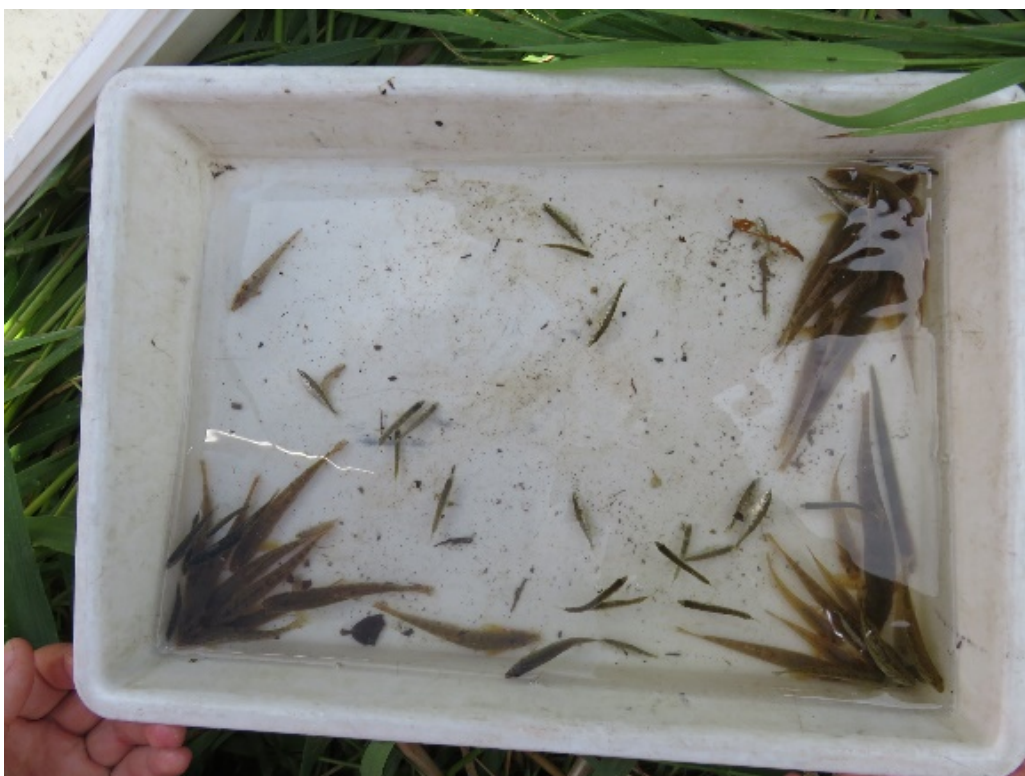
魚の重量を計測する様子



魚体の計測風景



捕獲した魚（ヤツメウナギ類）



捕獲した魚

作業行程

時間	内容
7:30~8:00	現地集合
8:00~8:15	開会式 開会挨拶：帯広河川事務所長 作業説明：アークコーポレーション株式会社 室瀬氏
8:15~9:20	樹林化抑制調査（ヤナギを対象）
9:20~9:30	休憩
9:30~11:45	魚類等調査
12:00~12:10	閉会式 閉会挨拶：帯広河川事務所長 生徒挨拶
12:30~	昼食 十勝川インフォメーションセンターにて



集合時の風景



帯広河川事務所長による開会挨拶



作業説明風景



休息施設の風景



休憩風景



閉会時に挨拶する農高生



閉会時の風景



昼食に用意したお弁当です。



生徒達の昼食風景です。